

八甲田山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 青森森林管理署
所在地	青森県(十和田市)
面積	3,822.92ha
設定年	平成元年(設定)、平成8年(再編)、平成23年(面積増)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	奥羽山脈の北端にある八甲田連峰は、「道南下北津軽型」、「東北太平洋型」及び「東北日本海型」の接点となる地域に位置し、自然状態が十分に保存された天然林を主体とする森林が広く分布している。本保護林は、多様な生態系を構成する全ての生物種について、遺伝資源を安定的、恒久的に保存し、今後の利用に資することを目的として設定された。



保護林の概況



調査プロット3

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、哺乳類調査、鳥類調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類調査、鳥類調査も実施。
結果概要	2プロットとも良好なブナ林が維持されており、ブナの後継樹の生育も確認され、今後の更新が期待できることが判明した。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

五葉山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸中部森林管理署
所在地	岩手県(大船渡市、釜石市、気仙郡住田町)
面積	1,950.79ha
設定年	平成14年(設定)、平成17年(面積増)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	五葉山周辺の国有林野については、「五葉山植物群落保護林」及び「北上高地緑の回廊」が設定され、保護、保全が図られてきた。本保護林は、国有林野内の原生的な森林生態系や地域の自然を代表する植物群落などの貴重な森林の保護を適切に図ることを目的として設定された。



保護林の概況(調査プロット2)



哺乳類調査自動撮影カメラ設置位置

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、哺乳類調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ヒノキアスナロ(ヒバ)群落に調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類調査も実施。
結果概要	2プロットともに林相等に大きな変化はなく、健全に維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

朝日山地森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署
所在地	山形県(西村山郡西川町、同・朝日町、同・大江町)
面積	15,121.60ha
設定年	平成15年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	本地域の主要部分は、人為の介入がほとんどなく、原始的な自然状態が維持されている。低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠いて低木林が発達する豪雪地特有の植生が見られ、多様な動植物が生息・生育している。本保護地域は、これらの原始的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護等に資することを目的として設定された。



保護林の概況(調査プロット2)



調査プロットへの入口の溪畔林

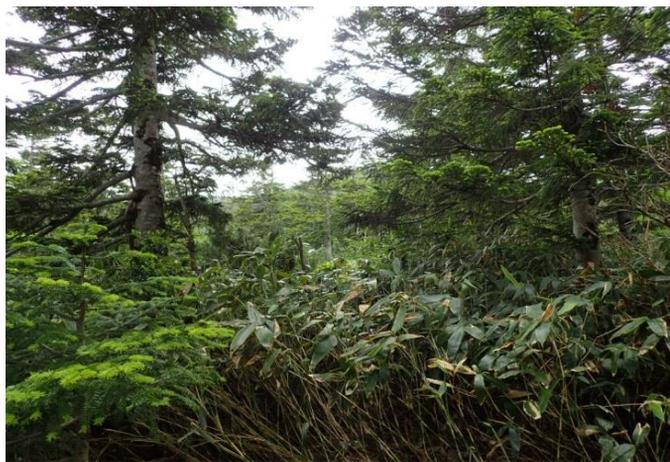
モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、哺乳類調査、鳥類調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類調査、鳥類調査も実施。
結果概要	森林の主要な構成種であるブナは大きな変化なく生育していたが、後継樹としての実生や幼木がやや少なかった。林相等には大きな変化はなく、健全に維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

蔵王生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署
所在地	山形県(山形市、上山市)
面積	1,827.98ha
設定年	平成12年(設定)、平成16年(面積増)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は奥羽山脈南部の蔵王連峰に位置する。ブナを主体とする山地帯は標高1,350m内外でオオシラビソ(アオモリドマツ)林の亜高山帯へ移行し、標高1,600m以上には高山矮性灌木群落、火山荒原植物群落、雪田植物群落、亜高山落葉広葉樹林等の植生が成立している。本保護林は、これらの植物群落を一体のものとして保存するとともに、森林生態系の効果的な保全に資するために設定された。



保護林の概況



調査プロット

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等。
調査手法	森林詳細調査として、オオシラビソ(アオモリドマツ)群集において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	本地域特有の樹氷を形成するオオシラビソ(アオモリドマツ)が亜高木層～低木層を形成し、林床にはシロバナトウウチソウ等の高山植物が生育しており、本地域における特徴的な群集を形成していた。一方、西側斜面ではオオシラビソの立ち枯れが多く確認された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

船形山(御所山)生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署
所在地	山形県(尾花沢市)
面積	1,361.64ha
設定年	平成11年(設定)、平成16年(面積増)、平成23年(面積増)、平成26年(面積増)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	船形山(御所山)には広域的に自然植生が分布する。植生の主体はブナ・チシマザサ群落で、裏日本型ブナ林の特徴を持つ。ブナ帯上部には亜高山性の針葉樹林が見られない。亜高山帯域には、風衝草原、ハイマツ群落、ミヤマナラ群落等が立地の自然環境に即して成立する。本保護林は、これらの多様な植物群落を一体のものとして保存するとともに、森林生態系の効果的な保全に資することを目的として設定された。



保護林の概況



調査プロット1

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	本保護林は東北地方の典型的な山地樹林植生である。2プロットともに優占樹種の生長がみられ、大きな問題はなかった。

遊仙峡クリ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署
所在地	山形県(山形市)
面積	10.90ha
設定年	平成2年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は山形県山寺の東南約4kmに位置する、クリを主とする壮齢の広葉樹天然林であり、遺伝資源の保存を目的として設定された。「遊仙峡クリ林木遺伝資源保存林」から移行したものである。



保護林の概況



調査プロットへの経路

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ミズナラ群落において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	本保護林は、ミズキ、ミズナラを優占樹種とし、オニグルミ、クリ等が混交している林分である。大きな変化はなかった。プロット内で確認されたクリは2本のみで後継木は確認されなかった。

月山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
所在地	山形県(最上郡大蔵村)
面積	1,421.51ha
設定年	平成16年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	山形県の月山周辺は一部の地域を除いて亜高山性針葉樹林が発達しない多雪山地である。ブナ林は概ね標高700m~1400mの地域に見られ、その上部にはミヤマナラ等の群落が発達する。また、山頂までの東斜面には数多くの湿原や雪田があり、高山植物も豊富である。本保護林は月山周辺のブナ林、湿原や雪田に生育する植物群落の保護を目的として設定された。



保護林の概況



調査プロット2

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	森林の主要な構成種であるブナは小径木や実生が多数確認され、後継樹が順調に育っており、今後の更新に期待できることが判明した。構成種、林相については大きな変化なく維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

山の内スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 山形森林管理署最上支署
所在地	山形県(最上郡戸沢村)
面積	255.82ha
設定年	昭和48年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は山形県内を流れる最上川下流左岸に位置し、通称「山の内スギ」と呼ばれるスギ天然林である。スギ天然林の保護と遺伝資源の保存を目的として設定された「山の内スギ林木遺伝資源保存林」と「山の内スギ植物群落保護林」が平成29年に統合再編されたものである。



保護林の概況



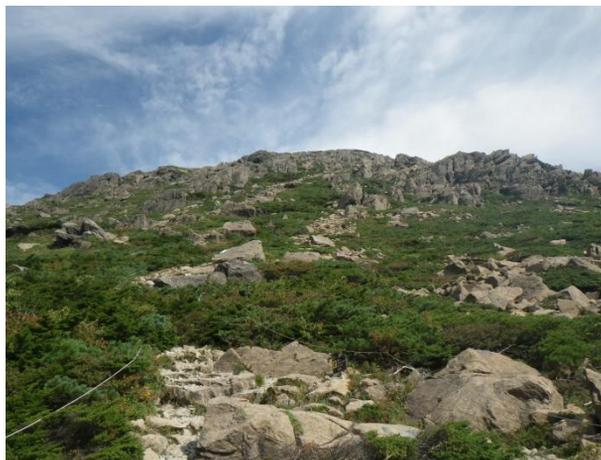
調査プロット2

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等。
調査手法	森林詳細調査として、スギ-ブナ群落において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	スギの本数は前回調査から大きな変化はなく、林相も維持された。しかし、後継樹にあたるスギ若齢木はやや少なかった。

早池峰山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署
所在地	岩手県(花巻市、遠野市)
面積	3,543.85ha
設定年	平成5年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	早池峰山周辺には、超塩基性の蛇紋岩質地域と非蛇紋岩質地域に大別される基岩の相違による植物相の対照が顕著であり、ブナ及びヒノキアスナロ(ヒバ)を主体とする天然林が存在している。北面には国指定天然記念物「アカエゾマツの自生南限地」がある。森林以外にも原生的な自然が良好に保持されており、特産種を含む高山植物の宝庫となっている。本保護地域は、これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護等に資することを目的として設定された。



保護林の概況



調査プロット(K-1)

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、哺乳類調査等。
調査手法	森林詳細調査として、高山帯に3箇所調査プロットを設定し、定点写真の撮影、高山植物食害調査を実施し、高山植物の被食害状況を把握。哺乳類調査も実施。
結果概要	高山植物の種数が最多の地点は特に貴重な地域であると考えられたが、哺乳類による食害も多く、被食害植物種数、量ともに最も多かった。樹林帯や低木帯に近いニホンジカの出現頻度が高く、食害を受けやすいと考えられた。

葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	4,618.59ha
設定年	平成3年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	本保護地域は秋田・岩手県境に位置する。標高1,200mまでは原生的な日本海型のブナ林、それ以上の八幡平から大深岳、曲崎山に至る部分などの亜高山帯にはオオシラビソ(アオモリトドマツ)林が広く分布する。貴重種・希少種で構成される種々の植物群落もあり、学術的に優れた地域である。本保護地域はこれらの原生的な生態系を保存することを目的として設定された。



保護林の概況(調査プロット1)



鳥類調査地点A

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、哺乳類調査、鳥類調査等。
調査手法	森林詳細調査として、オオシラビソ(アオモリトドマツ)群集において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類調査、鳥類調査も実施。
結果概要	雪と風によると考えられる上部の幹折れや葉の変色を多く確認したが、前回調査時の林相と比較して変化が少ないことや、下部の枝葉は特に問題なく生育していることから、森林の維持に関しては問題ないと考えられた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

奥羽山脈北西部生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	129.33ha
設定年	昭和47年(設定)、昭和48年(別途設定)、昭和61年(別途設定)、平成元年(再編)、平成10年(統合・再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は、東北地方を南北に縦貫する奥羽山脈北西部の八幡平から西方に派生した支脈にあつて、森吉山の南東側に位置し、緩やかな台地状の山地となっている。標高約800~1,000m程度の高海拔地にブナ林、天然スギ林、クロベ・キタゴヨウ林、中間湿原等が混交して地域的にまとまって発達しており、学術的にも貴重な地域であることから、保護林として設定された。



保護林の概況



調査プロット1

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、哺乳類調査、鳥類調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類調査、鳥類調査も実施。
結果概要	主要な構成種であるブナは後継樹が順調に育っており、今後の更新に期待できることが判明した。構成種、林相については大きな変化はなく、現状が維持されていた。

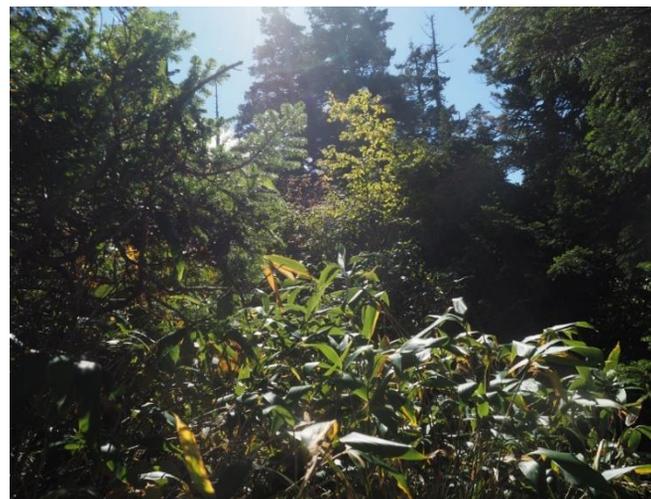
※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

八幡平生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	2,605.72ha
設定年	平成11年(設定)、平成18年(面積増)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	奥羽山脈の八幡平を中心とした山岳地帯には、林床にチシマザサが優占するブナやオオシラビソ(アオモリトドマツ)の群落等が見られ、山地帯から亜高山帯の典型的な垂直分布を示している。高層湿原も存在するほか、数多くの希少種が確認されている。本保護林は、これらの植物群落を一体のものとして保存し、奥羽山脈緑の回廊の核として森林生態系の効果的な保全に資するために設定された。



保護林の概況



調査プロット1

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、オオシラビソ(アオモリトドマツ)群集において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	林相等に大きな変化はなく、健全に維持されていると考えられるが、優占種であるオオシラビソ(オオシラビソ)は後継樹がやや少なかった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

軽井沢アカシデ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(秋田市)
面積	9.04ha
設定年	昭和63年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林はアカシデの遺伝資源保存を目的として設定された。秋田市の「仁別国民の森」南側尾根部を中心に位置する天然生林で、スギ、アカシデ、ミズナラとブナ等が混交する。



保護林の概況



調査プロット1

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、スギ-ブナ群落において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	アカシデは前回調査とほぼ同数が維持されていた。実生も確認され、今後の更新が期待できる状況であった。

田沢湖コナラ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	4.67ha
設定年	平成3年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林はコナラの遺伝資源保存を目的として設定された、日本海側東北地方で唯一指定されているコナラの林木遺伝資源保存林である。田沢湖東側湖畔に位置し、樹齢120年以上のコナラを主とする、この周辺では最もまとまった落葉広葉樹の天然壮齢林分である。湖岸と道路に挟まれた山地斜面および湖岸の段丘面に成立している。



保護林の概況



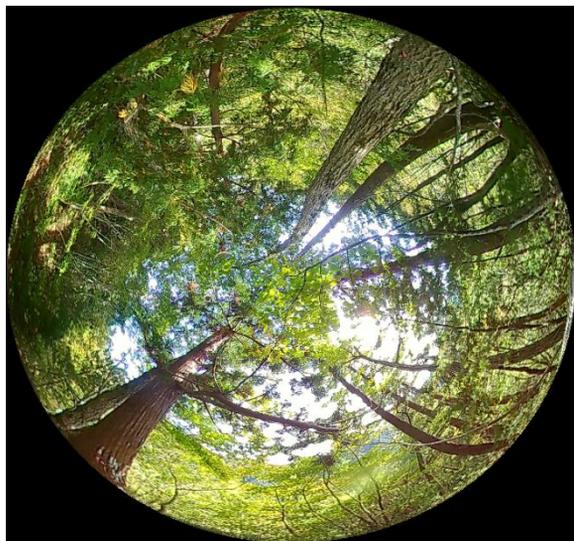
調査プロット

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、コナラ群落において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	樹高30m近くに達し、胸高直径60cmを超える個体も多く、貴重なコナラ林である。コナラの良い生育が確認された。

小又沢スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(秋田市)
面積	42.19ha
設定年	昭和48年(設定)、平成5年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は、秋田県太平山県立自然公園区域内の標高150～490mに自生している、岩見川流域に残された唯一のスギ天然林の群落である。



保護林の概況



調査プロット2

モニタリング調査概要

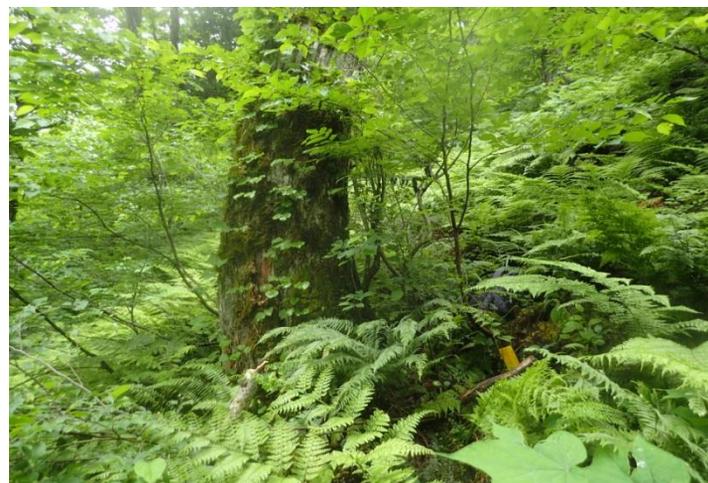
実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、スギ-ブナ群落等において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	スギは前回調査と同程度の本数が確認された。新たな定着個体も確認され、更新状況は良好であった。

奥山沢スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(大仙市)
面積	9.24ha
設定年	昭和56年(設定)、平成3年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	秋田県大仙市北部の奥山(標高751m)を源とする大諸杉沢下流に自生するスギ天然林で、当該流域に残された唯一のものである。本保護林は天然秋田スギの保存と学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林の概況



調査プロット

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、スギ群落において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	急斜面で植林に不向きであるために残されたと推測されるスギ林であり、周辺含め総じてスギの巨木が多かった。しかし、後継樹は少ない状況であった。

真昼岳オサバグサ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北郡美郷町)
面積	5.00ha
設定年	昭和51年(設定)、平成3年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	オサバグサは日本固有の多年生草本で、本州北部及び中部において、高山・亜高山の針葉樹林内等に自生する。本保護林では、オサバグサが標高980mから真昼岳(1,060m)頂上のササ群落内のキャラボク低木下にミヤマカタバミを伴って群落をなしており特異である。



保護林の概況



オサバグサ

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、ササ群落において調査プロットを設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。オサバグサの実生調査も実施。
結果概要	オサバグサはチシマザサの下にかなりの密生状態で生育していた。プロット及び周辺におけるオサバグサの生育状況は概ね良好であった。

湯沢ヒメカイウ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北市)
面積	4.97ha
設定年	平成3年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	本保護林は秋田県仙北市の湯沢国有林に生育するヒメカイウ、及び自生地周辺の人工林も含め保存することを目的として設定された。ヒメカイウは北海道、本州(中部以北)に分布する氷河期の遺存植物で、ブナ帯からシラビソ帯の浅い水中や湖畔に群生し、全国的にも極めて貴重である。本地域のヒメカイウは昭和63年に秋田県内では初めて発見されたものである。



保護林内の湿地



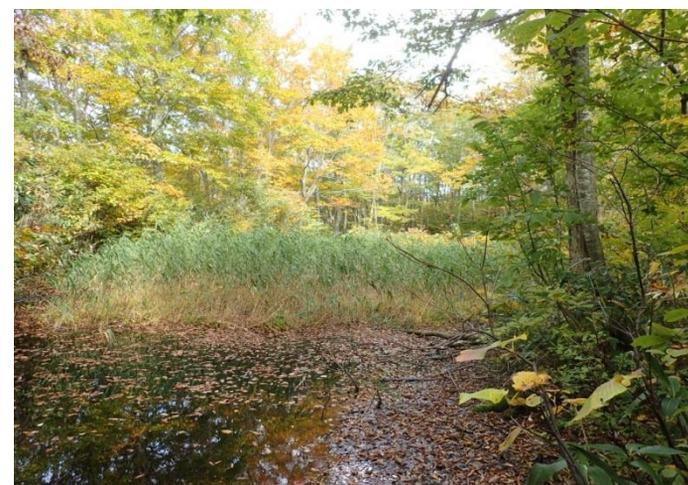
ヒメカイウ

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、ミズナラ群落等において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。ヒメカイウの個体数調査も実施。
結果概要	ヒメカイウはいずれのプロットでも確認された。生育地および周辺の環境に大きな変化は見られず、生育状況は安定していた。

真昼岳モリアオガエル希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署
所在地	秋田県(仙北郡美郷町)
面積	7.09ha
設定年	平成3年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	秋田県東部の真昼岳北斜面の松長根沼(標高640m)及び周辺斜面地の天然生林にはモリアオガエルが生息する。モリアオガエルは水辺の樹枝の葉に白い泡状の卵塊を産みつけ繁殖するという特異な生態を有している。本保護林は当地域のモリアオガエルの生息地の保護を目的として設定された。



保護林と湿地の概況



調査プロット2

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、モリアオガエルの生息状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。モリアオガエルの生息状況調査も実施。
結果概要	周辺も含め植生環境に大きな変化はなかった。モリアオガエルも多数確認され、生育環境が維持されていると推測された。

栗駒山・朽ヶ森山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署湯沢支署
所在地	秋田県(湯沢市、雄勝郡東成瀬村)
面積	4,612.56ha
設定年	平成6年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	本保護地域は奥羽山脈緑の回廊の中核をなす。日本海型多雪山地の特徴であるブナ-チシマザサ群落にユキツバキを伴い、山頂付近にはミヤマナラとハイマツが混交し、亜高山帯針葉樹林が発達しない特異な景観を呈している。これらの原生的な森林生態系の保存により、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林の概況



調査プロットへの経路

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、哺乳類調査、鳥類調査等。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落等において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類調査、鳥類調査も実施。
結果概要	林相に大きな変化は見られず、原生的な天然林が保存されており、動植物の生息・生育環境としても良好な状態が維持されていると考えられた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

田代沼水生希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 秋田森林管理署湯沢支署
所在地	秋田県(湯沢市)
面積	18.73ha
設定年	平成6年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	秋田県の栗駒山西山腹にある直径70mほどの田代沼には、山地の腐食酸性の池沼に極めて稀に生育するオゼコウホネが確認されており、ヒルムシロやヒツジグサなどの水生植物も生育している。本保護林は、これらの水生植物を含む田代沼の植物群落を保存するために設定された。



保護林の概況



湿性植物が生育する草地

モニタリング調査概要

実施年度	平成30年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査。
調査手法	森林詳細調査として、ブナ群落等において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	前回調査で確認された湿性の希少植物5種は今回も確認された。ブナ群落に設定された調査区には大きな変化はなかったが、湿性草地に設定された調査区ではヤマハンノキの侵入による樹林化の兆しが見られた。